

授業科目(ナンバリング)	スポーツ社会学(CC105)			担当教員	宮良 俊行		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
スポーツツーリズムコースの専門科目として、スポーツを広い視野でみる事ができる。国内外におけるスポーツの歴史を学習する。それを踏まえ、将来、国際社会や地域社会において、スポーツに関わり、スポーツを通して国際交流や地域の活性化に貢献できる人材となるための専門的な知識を身につける事ができる。							②③④⑤⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力	スポーツの歴史や時代背景について説明することができる。また、個々のスポーツ種目や世代ごとのスポーツ実施状況などを理解し、説明することができる。			・定期試験		20%	
情報収集、分析力	スポーツに関連する社会的課題を収集し、分析することができ、情報を読み解くことができる。			・定期試験		20%	
コミュニケーション力	小グループにて、スポーツに関わる課題をディスカッションし、その解決方法など自分のアイデアを発表することができる。			・授業態度・授業への参加度(プレゼンテーション)		15%	
協働・課題解決力	小グループにて、スポーツに関わる課題に関して、自分の考えを持ちつつ、他人の意見も尊重しながら理解し、解決方法などをディスカッションすることができる。			・授業態度・授業への参加度(グループディスカッション)		15%	
多様性理解力	スポーツに対する様々な見方、考え方を理解し表現することができる。			・課題レポート(3回)		30%	
出席				受験要件			
合計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各授業における受講態度(評価比率30%)、課題レポートは3回実施する。その提出状況、レポート内容で(評価比率30%)評価する。また、定期試験では筆記試験を実施し(評価基準40%)、これらの結果をもとに総合的に評価する。また、課題レポートに関しては授業中に適宜フィードバックを実施する。							
授業の概要							
本授業は、スポーツに関する幅広い知識を持てるよう、スポーツが国家や地域などの中でいかにして作られ、発展してきたのかという歴史のプロセスと、現代の人々がスポーツをどのように捉えているのかを学ぶ。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特になし。講義内において適宜プリントを配布する。 参考書：特になし。 指定図書：「スポーツの歴史と文化」							
授業外における学修及び学生に期待すること							
公認スポーツ指導者「スポーツリーダー」資格取得を目指す者と同等の積極性を持つ学生に受講してもらい、社会の中でのスポーツが取り巻く環境を考え、発言できるようになって欲しい。また、2年次は「地域スポーツ」、3年次は「スポーツマネジメント」を履修し体系的に学ぶことを希望する。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	スポーツ社会学の必要性	スポーツに関連する社会構造、スポーツに関する社会問題、スポーツ社会学の意義	新聞記事などスポーツに関する資料を集める。
2	スポーツの概念と歴史	スポーツの歴史的発展と現代スポーツの考え方について。及びスポーツを取り巻く環境について考える。	スポーツ社会学の必要性について話し合う。スポーツの現在と未来について自分なりの考えをもってくる。
3	文化としてのスポーツ	スポーツの文化性、文化的内容、スポーツ観、スポーツ規範、ボランティアについて。	日本人と体育について話し合う。スポーツ・ナショナリズムについて自分なりの考えをもってくる。
4	社会の中のスポーツ	スポーツの定義とスポーツと社会の関わりの変化を概観する。スポーツの誕生と発展過程、心身鍛練と競技からの概念の拡大、現代社会におけるスポーツの位置づけと意義および諸問題、スポーツ人口の国際比較、スポーツ指導の専門性など	日本人と体育について話し合う。スポーツ・ナショナリズムについて自分なりの考えをもってくる。
5	総合型地域スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブについて理解する。	日本人とスポーツ・ナショナリズムについて話し合う。アマチュアリズムについて自分なりの考えをもってくる。
6	障がい者とスポーツ	障害を持った人におけるトップスポーツの環境について。	日本人とアマチュアリズムについて話し合う。企業スポーツについて自分なりの考えをもってくる。
7	日本人とプロ・スポーツ	現代社会とスポーツとの関わりについて学ぶ。スポーツ集団とその構造、スポーツと政治、地域社会におけるスポーツとその指導者の役割など。	日本人と企業スポーツについて話し合う。プロ・スポーツについて自分なりの考えをもってくる。
8	日本人とメジャーリーグ	日本人のスポーツ観、日本のスポーツ集団の形成、日本のスポーツ組織の特徴を取り上げる。	日本人とプロ・スポーツについて話し合う。メジャーリーグについて自分なりの考えをもってくる。
9	日本人と世界のスポーツ	スポーツと経済の側面から、メディアによる演出と劇場化、スポンサーシップ、オリンピックとワールドカップの膨張、商業主義の功罪、スポーツマンの権利について考える。	日本人とメジャーリーグについて話し合う。世界のスポーツについて自分なりの考えをもってくる。
10	日本人のスポーツ芸術	見るスポーツ、作られるスポーツファン、文化装置としての私設応援団、身体的コミュニケーションが生み出す一体感などを通して、スポーツファンの社会を垣間見る。	日本人と世界のスポーツについて話し合う。スポーツ芸術について自分なりの考えをもってくる。
11	日本人とスポーツ・ジャーナリズム	我が国のスポーツプロモーション、日常・非日常生活でスポーツが生み出す人の移動について考える。スポーツ観戦、観戦ツアーなど。	日本人とスポーツ芸術について話し合う。スポーツ・ジャーナルについて自分なりの考えをもってくる。
12	スポーツと日本の未来	社会の中のスポーツについて、学校体育について考える。体育とは、体育制度の確立と社会的機能、学校体育における体力と楽しさの相克など。	日本人とスポーツ・ジャーナルについて話し合う。スポーツと日本の未来について自分なりの考えをもってくる。
13	体育の社会的構造と機能	コミュニティスポーツと生涯スポーツ、世界的視野でみたスポーツの動向と振興策、日本の振興策、スポーツの将来的課題などの観点から、スポーツ振興策について学ぶ。	スポーツと日本の未来について話し合う。体育の社会的構造と機能について自分なりの考えをもってくる。
14	体育の学習指導過程	これまでの講義内容を踏まえ、余暇や地域社会の中でのスポーツ・体育の意義、およびこれからの課題について考える。	体育の社会的構造と機能について話し合う。体育の学習指導過程について自分なりの考えをもってくる。
15	これからのスポーツと体育	新聞の切り抜きなどを使ってスポーツと体育の将来構想を考える。	体育の学習指導過程について話し合う。スポーツと体育について自分なりの考えをもってくる。
16	定期試験	試験	試験の準備学修